



# CTでより精密な骨格レプリカが製作でき 作業効率が向上しました

アンフィ合同会社 代表 佐々木 彰央

## — 博物館や大学向け模型での利用 —

骨格レプリカは、博物館等での展示や、さわれる資料教材として使用されています。型取りなどで作る方法もありますが、当社では3次元データを取得後、3Dプリンターで出力し、さらに手作業でのクリーニングと着色をして精巧な模型を製作しています。

3次元データの取得には、表面測定用の3Dスキャナを使う方法や複数の写真から生成するフォトグラメトリが知られていますが、骨格内部の構造までデータ化するには、X線CTを使う必要があります。その違いはアザラシの頭骨模型で見比べていただくと一目瞭然です。X線CTでデータ化したことで鼻腔内の複雑な構造を模型でも精密に再現できるようになったほか、従来おこなっていた造形や着色による縫合線ほうごうせんの再現をする必要がなくなりました。 ※骨と骨のつなぎ目

### 【アザラシの頭骨】



メリットは他にもあり、バラバラにしてしまうと位置や角度の再現が難しい肋骨や椎骨ろっこつ ついごつといった部位も、冷凍標本や液浸標本をそのままCTにかけるだけで、正確にデータ化できます。NAOMi-CTなら時間もあっという間。

貴重な標本との接触を最小限にし、その特徴を最大限活用できるCTは、デジタル化や、さわれる展示など子供や目の不自由な人にも分かりやすいユニバーサルデザインに取組む博物館等にとって、今後、なくてはならない存在です。



繊細で複数の肋骨をもつマムシ。CT導入で液浸標本から模型製作ができるように。以前は一つひとつの骨をフォトグラメトリでデータ取得していた。

アンフィ合同会社   
https://amphillc.com

生き物と美術の専門スタッフがタッグを組み模型を製作。一般向けの模型販売も人気。2023年からは「きみの自然体験館」をオープンし、模型の色塗りやピオトープづくりなどの体験イベントも実施している。



色々なCT画像を動画で  
ご覧いただけます→

